

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>渋川たやの家独自の理念をつくり、理念に基づきサービスを提供している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>朝礼時、「今月の目標」として毎日復唱し、実践できるよう職員全員で考え、行動している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>渋川たやの家独自の理念を玄関に掲示し、家族や地域の方に理解して頂いている。また、サービスを提供していく上で、家族や地域の方に信頼して頂けるような事業所を目指し努力している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の途中などで、近所の方と会話をしたり、農園の作業を通じて交流がとれている。</p>	<p>○ 気軽に立ち寄っていただけるよう、交流機会を今以上に増やしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議をきっかけとして、民生委員の方から地域行事へ招待され参加したりしている。</p>	<p>○ 徐々に増えてきているが、今以上に回数を増やしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方からの相談には、その都度対応しているが、ホーム側からの取り組みは現状と少ない。	○	ホーム側からの活動することで、できる事をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を理解しており、業務している上で改善できる事や改善していきたい事を、その都度、職員で話し合い取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地域の方に出席して頂き、たやの家のサービスなどを知って頂くと共に、出席された方からの意見を取り入れて援助している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で来られることがほとんどある。サービス内容などで不明な点がある時は、その都度、担当者に電話で確認したり、担当者の所に行き確認をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会がなく、理解と活用が乏しい。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての講習会や研修へ積極的に参加して理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習会への参加は少ないが、資料などで虐待防止について職員で話し合ったりして、虐待防止に努めている。	○	研修や講習会へ積極的に参加して、今以上に理解を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退居時には、十分な説明を行い、相談の上支援している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見などを取り入れ援助しており、職員へ伝えられるような環境づくりに努めている。入居者からあまり訴えない方の場合、家族の面会があった後に、家族の方に何かを訴えていないかどうかを確認している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、自分で管理できない方は、ホームで預かるなどの対応をしているが、ホームで預かっている方は、現在いない。数名の方が、自己管理している。家族の面会時を中心に、状態報告や職員の異動等について報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望については、受け付けた時にノートに記載すると共に、翌日の朝礼等で、職員全員が把握できるような対応を心がけている。	○ 家族などの意見や要望などが、口頭では少ない為、今後アンケートなどを作成し、意見や要望などを収集し、反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、職員の意見や提案を取り入れ運営している。会議欠席の職員については、用紙に意見を記入して頂き、会議での意見としている。会議以外にも、朝礼時などに、職員の意見を出していただき、反映していけるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に把握している行事や受診については、職員の人数を確保し運営している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動について、入居者の方に影響が出る事は理解しているが、離職や異動が多い。離職や異動の話が出た際は、本人や代表者と相談し、最小限に抑えられるよう努力している。	○ 異動については、組織で運営している為、防げない面もあるが、離職も含め、同じ職場で長く勤務できるよう、入居者の方に影響がでないよう今後も取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員教育として、研修センター主催の研修やホーム内での研修を積極的に参加、開催している。	○	研修への参加する機会を増やし、職員の教育、育成に努めていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	連絡協議会の中で、他のホーム職員と交流する機会があり、他のホーム職員からの意見などで、ホームに取り入れられる事は取り入れてサービスの質の向上を図っている。	○	他のホームの見学や業務体験を取り入れて、ホームに取り入れられそうなことなどを学んできて、サービスの質の向上を図りたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	業務上の悩み等は、職員同士で気軽に話せる環境でもあり、ストレスの軽減となっている。年に数回、職員が食事会を開催し、親睦を深めている。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	資格挑戦など、職員の向上心については、ホーム全体で協力をしている。職員同士でアドバイスをしたりして、勤務している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居者との普通の会話の中で、希望や要望などを聴き取り、受けとめ援助している。	○	入居者自身から訴えられない方もあり、様々な工夫をして、その方の不安解消などに努めていきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	面会時に状態報告を行い、家族からの意見・要望を聴き取り、援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早めの対応を心がけ、相談に対してできるだけ早い対応、状況に応じた適した対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や入居前の施設職員などから、普段の生活や好き嫌いや環境面などで聴き取り、ホームでできることであれば援助し、極力入居前の生活に近づけられるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に職員は生活をしており、入居者から学んだり、職員が教えたりして、レクリエーションなどを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態報告を行い、職員の力だけでは対応できない面もあり、面会時に一緒になって散歩の付き添いやレクリエーションなどをして、家族との関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会や外泊・外出時間を自由としており、外出や外泊をする機会も増えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の中では、数名であるが、以前勤務されていた職場の方の面会や近所の方の面会などがある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者とのレクリエーションや家事援助の際、一人だけでなく複数で行えるよう作業を分担して援助している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後でも、家族より連絡が来る時もあり、退居後も連絡をとったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や意向を尊重し、できる範囲で個別援助を取り入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や過去の暮らし方を、入居時や面会時など家族から確認したりして援助している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の現在行っている事をすべてリハビリとして考え、自力で行える事はしていただけるよう援助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人等の意見や要望を踏まえ介護計画を作成している。入居の際は、以前いたホームのスタッフからの情報を踏まえて介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは、6ヶ月毎に行っており、状態の変化に応じては随時見直しを行っている。モニタリングについては、毎月「介護の視点」という用紙にて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活面を重視し、生活上の様子や体調面の変化を具体的に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの運営のみで、多機能性は活かせていない。	○	どのような多機能性があるのかわからない。多機能性があるのであれば、活かしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議をきっかけに民生委員との交流も増え、外出時など協力をしていただいている。消防署による防災訓練や地域の中学生の体験ボランティアなどの受け入れなどを行い、理解や協力が得られるよう働きかけている。	○	ボランティアの受け入れは、随時行っているが少ない為、積極的に地域の方に働きかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療面を除いては、他のサービスを利用することがない。	○	グループホーム入居中の方で、他のサービスを利用できるのであれば、利用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向がなく、地域包括支援センターとは、殆ど協働していない。	○	意向や必要性があれば、検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、家族や本人の希望を尊重している。協力医療機関での主治医の往診が週1回(毎週火曜日)にあり、状態確認をしていただいている。状態変化の際は、随時電話にて相談を行える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員全員が共有できていない為、共有していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	入居者のペースで物事を考え、今以上に希望を取り入れ援助していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	入居者の機能面で、配膳や下膳、調理などが、職員と一緒にすることが難しくなっているが、その方のできる事を取り入れ援助している。今後も、入居者の方のできる事を職員と一緒にしていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	現在、お酒を飲まれている方や喫煙されている方は、いない。以前は、数名希望者がいて、その都度対応していた。入居者が遠慮されていることも考えられる為、今以上に希望にそって援助していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して入居者の方の機能を活かして援助している。	○	リハビリパンツを使用者であっても、失禁の回数などを考慮し、夏場の暑い時期など蒸れての皮膚疾患になってしまう為、予防として、日中のみ布製のパンツで対応したりしているが、機能面でトイレ使用が困難な方が増えてきており、おむつ使用者も増えている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで入浴されているが、希望によっては、毎日入浴をされている方もいる。又、皮膚の状態や体調面などを考慮して入浴を検討している。	○	職員の勤務体制により、日中の入浴になっているが、夜間の入浴希望者が出た場合などの対応も検討していきたい。(現在、夜間の入浴希望者はいない)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れず徘徊などがみられる方は、日中の散歩やレクリエーション等で活動を増やすなどの工夫をしている。眠剤に頼らず、夜間覚醒している方に対しては、話を聞いたりするなどの対応をしている。	○	現在も数名であるが、時々、夜間徘徊もみられる入居者もあり、安心して入眠できるよう工夫して援助していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除など役割意識を持って生活をされている。目標を決め、達成できるよう職員と一緒に共同生活をしている。	○	機能面で、洗濯物たたみなどが出来ない方もおり、その方の楽しみなどをみつけて援助していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と家族の話し合いで、自己管理できる方には自己管理していただき、買い物などの時に使っていただくようにしている。	○	お金の自己管理は、紛失などのトラブルも考えられ、入居者の方が自己管理している事が少ない。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブは、定期的に企画して実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食会を企画して行う時など、家族も参加することもある。時々、家族と本人の希望もあり、家族の対応では車への乗せ降りができない時など、外出場所への入居者の送迎をする事もある。	○	個別の援助が難しい面があり、今後ホーム全体で検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に添って、その都度、電話や手紙の対応をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の方の面会は、制限がなく、入居者自身が連絡を取りたいなどの希望があれば、連絡をして面会を依頼している。知人や友人などの面会回数も多い。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを目指し援助をしている。	○	身体拘束についての研修等に参加する機会が少ない為、参加する機会を増やしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止の為、家族に説明を行い玄関やユニットの出入り口に施錠をしている。事務所に職員がいる時は、鍵の使用を減らしている。	○	施錠をせず見守りを強化し対応していく。徐々に、施錠している時間帯を減らしていけるような工夫を考え取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の安全面を第一に考え、定期的な巡視や必要に応じて、こまめに巡視をするなどの対応をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品は一時的に外すして様子を見ている。状況に応じての対応を心がけている。薬や洗剤、刃物などは保管場所を決めて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	グループ活動の1つ「事故防止グループ」で、事故防止について定期的に会議を開催し、事故防止に取り組んでいる。	○	研修などを開催して、今後も事故防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し、心肺蘇生法などの講習を行ったり、看護師のアドバイスやマニュアルなどを見たりして、事故防止に取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練などで、避難方法を身につけられるよう訓練をしているが、訓練の回数が少ない。又、地域の方の協力を得られるよう交流を深めていく必要がある。	○	消防署の協力による避難訓練以外にも、ホーム内の研修として避難方法の研修などを取り入れ、避難方法を身につけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族への状態報告の際に、起こりえるリスクも含めて説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の観察により、体調の変化や普段と様子が違う時など、職員同士で情報を共有し、早めに主治医に連絡するなどの対応をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週火曜日(週1回)、主治医の往診時に状態や症状を報告し、医師の指示どおり服薬援助を行っている。職員は、服薬の目的や副作用などを理解しての対応を心がけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員全員が、便秘の原因などを理解できており、入居者の状態を考慮しながら、運動や食事に工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き(入れ歯の手入れ)やうがいを促し、自力で出来る人には促し、見守り援助を行い、自力では困難な人には、職員が行うなど状態に応じて対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を温度盤に記載し、入居者1人1人の状態を把握するとともに、入居者1人1人に適した食事援助をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎食前にうがいや手洗いを行い、毎食後には口腔ケアを行っている。手すりやソファなどの共有部分は、消毒薬を使用した布で拭く等の予防策を徹底している。インフルエンザの予防接種も毎年、入居者と職員が全員実施している。	○	感染症予防について、今後も職員全員で取り組んでいくと共に、研修などにも参加していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、毎週火曜日と木曜日と土曜日に業者より納品となり、2日間または3日間であつかいきるようにしている。調理器具に関しても消毒などを定期的にして衛生面を保っている。	○	衛生管理、食中毒などの研修や講習会などに積極的に参加して、今以上に衛生面を保っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりにプランターに植えた花や樹木があり、家庭的な雰囲気づくりに努めているが、近隣の方の出入りが少ない。家族や入居者の方には、親しみやすい様子で、特に不都合はみられない。	○	ホーム側より、行事などを企画して、地域の方に参加していただける機会を増やしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに行事の写真や入居者と一緒に作った作品を掲示している。季節に応じて掲示物を変えている。	○	掲示物をはがされてしまうなどの問題もあり、掲示物が少ない為、検討して増やしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはテーブルやソファを設置しており、居室以外にも自由に過ごせる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご本人に、居室への持ち込みは自由であることを告げてあり、ご自宅や他のホームで使い慣れたもの(ダンスやコタツなど)を置ける範囲で持ち込んでいただき、安心して生活できる環境作りを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンを完備しており、換気や温度調整を入居者の状態や季節に応じて行っている。	○	今後も、汚物処理等も含めてにおいなどに気をつけて援助していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレ・廊下・浴室等に手すりを設置している。必要に応じて、浴室に手すりを増やしたり、シャワーチェアを状態に応じて購入して使用するなどの工夫をしている。	○	入居者の状態に応じて、今後も手すりを設置したりして、入居者の安全と自立した生活を支援していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者本位で職員は物事を考えているが、入居者の認知症の症状や身体機能などで難しい面もあるが、混乱や失敗を防げるよう、入居者と職員が一緒になって環境をつくっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターを利用して花を植え、水くれや観賞などを入居者と一緒にベランダにておこなっている。建物の近くに農園を借りており、農作物の収穫なども入居者の方と一緒にしている。	○	回数を増やしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

排泄物の処理方法（新聞紙に使用済みのパットなどを包んで、ビニール袋に入れて処理）により、ホーム内の臭いの解消や入居者の感染予防にもなっている。